

島根大学教育学部（松江市西川津町）は、現役で教員採用試験合格を目指す学生を支援する「未来教師塾」を2月に始める。競争率が5倍を越す狭き門になっている同試験の現役合格者数を増やし、

島根大学教育学部

力量のある教員を育成するのが狙い。動機づけとして宿泊研修を実施するほか、2次試験で必要な集団面接や討論をテーマにした集中講座を開く。

教員試験 現役合格増狙い

「未来教師塾」来月開講へ

同学部では学生を個別に指導し、けてもらう。

14年度の教員採用試験に現役合格した学生は2000年以降最多の50人（受験者数の42・4％）に上った。個別指導に成果が見られたのを受け、同学部はこれまで八つの講座を再編

宿泊研修 一体的に学生支援 など実施

して「未来教師塾」と名付け、より一体的な取り組みを進めることにした。計画では、試験勉強が本格化する2月に3年生を集めた宿泊研修を実施。自己PR文の作成や面接練習を行い、不得意分野などの課題を見つ

め、現役合格を目指す学生を手厚くサポートする。講座は今後も増やす方針で、同学部の縄田裕幸・就職部門長は「さらに多くの現役合格者を輩出し、地元貢献できる人材を育てたい」と意気込んでいる。

山陰中央新報 2015年1月6日(火)

教員試験合格へ支援塾

島根大教育学部は、教員採用試験合格を目指す学生を支援する「未来教師塾」を開設した。今月には主に3年生を対象にした自己アピール文作成や模擬面接などを行う1泊2日の宿泊研修を予定しており、同大学は「地元貢献できる教員をより多く輩出したい」とし

島根大が開設

ている。これまで、セミナーなど様々な就職支援を行ってきたが、今回、同塾の名称で統合し、昨秋に開設した。対象は3、4年生と大学院生が中心。4年生の前期に集団面接や討論の練習、採用試験の願書提出時期には願書の記入指導

模倣面接など宿泊研修

や添削なども受けられる。同大学は2014年度の教員採用試験（小、中、高、特別支援学校）で、教育学部と大学院（教育学研究科）を合わせて2000年以降で最も多い約50人が合格している。担当者は「これから教員を目指す高校生の方など、ぜひ期待してほしい」と話している。

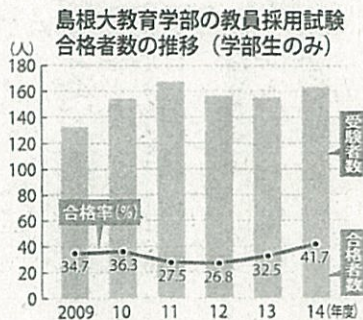
（井上絵莉子）

14年度、過去最高の48人

島根大教育学部（松江市西川津町）で、在学中に教員採用試験に合格する学生が増えている。2014年度の試験では過去最高の48人が合格。少子化が進み、各大学に生き残りを懸けた取り組みが求められる中、地方の大学ならではの「小回り」を生かし、合宿や継続的な面接指導など合格率アップに特化した対策が実を結んでいるようだ。

（地域報道部・増田枝里子）

島根大教育学部は04年度、国の教育学部再編方針を受け、鳥取大学と再編統合し、山陰両県で唯一の教員養成学部として再出発した。講師採用も含めた教員就職率は04年度33・7%と全国48大学で最下



合宿や面接指導が結実

人物を重視の傾向

大学側がてこ入れしたのが面接に特化した対策だ。教員就職を支援する同大就職部門長の縄田裕幸教授によると、近年の教員採用試験は学力以上に人物を重視する傾向があり、1次の学力試験を通過し

授。ここ数年は模擬面接講座を毎週開き、コミュニケーション力の向上を図った。在学中に合格した学生は、09年度は34人（合格率34・7%）だったが、14年度は48人（同41・7%）に増え、記録を取り始めた09年度以降で合格者数、合格率とも最高を記録した。15年度はこれまでの研修や

セミナーを再編し「未来教師塾」と命名。3年生を対象にしたスタートアップセミナーなどを手掛ける。同じ目標を持つ学生が集まる機会を定期的に設け、切磋琢磨しながら全員で「現役合格」を目指す狙いだ。

ニュース 追跡

現役校長らによる模擬面接を重ねた。面接官役の教員による厳しい特訓に自信を失いそうになったが「（厳しさが）試験に向かう動機づけになった。今後の教員生活にも必ず生きる」と感じている」と振り返る。

今後も訓練の場を

ただ、合格者を伸ばしてきたとはいえ、島根大の56・0%の教員就職率は、全国トップの鳴門教育大（徳島県、79・1%）や金沢大（75・8%）には及ばず、全国44校中34位だ。縄田教授は「学生数の少ない島根大だからこそ、大学側が責任を持って一人一人と向き合える。今後も訓練の場を提供したい」と強調する。18歳人口が減少期に入り、大学間の競争がより激化する「2018年問題」が待ち受ける。島根大が存在感を高め、いくには、学生と密接な関係を築ける利点を生かし、徹底した取り組みを貫けるかどうかにかかっている。

り、観光への影響も危惧される。しっかり効果を検証していきたい」とした。